

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語73人 算数73人 理科73人

第5学年 国語78人 算数78人 理科79人

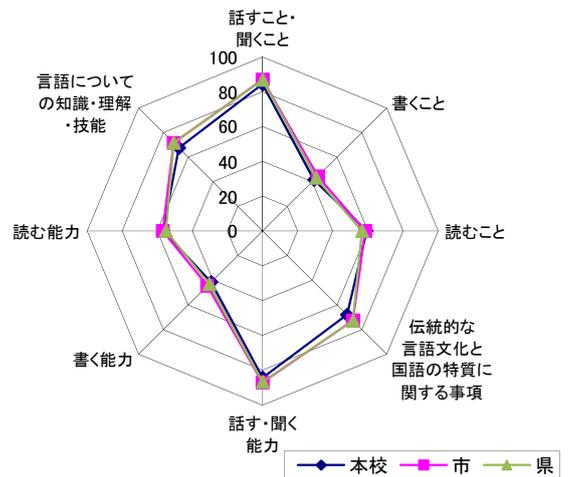
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	84.3	87.0	86.7
	書くこと	41.5	44.5	43.1
	読むこと	59.3	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.0	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	84.3	87.0	86.7
	書く能力	41.5	44.5	43.1
	読む能力	56.7	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	67.4	71.7	71.7



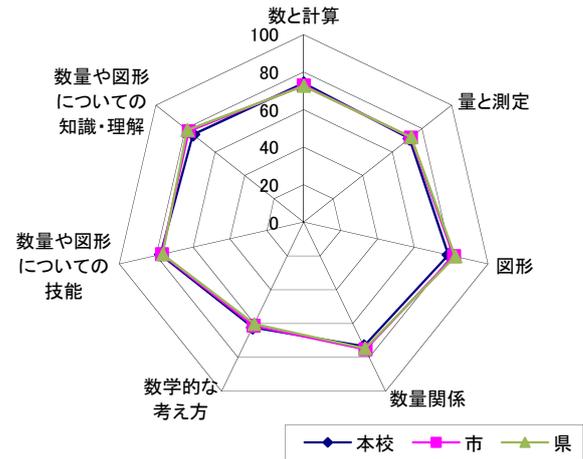
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話の中心に気を付けて聞くことができる」の設問の正答率は88.9%で、市の平均と同じであり、県の平均より0.3ポイント高い。 ●「互いの考えの共通点や相違点を整理して聞くことができる」の設問では、5.9ポイント市の平均より低い。	・友達の話をよく聞き、自分の意見との違いや似ている点を考えながら聞く習慣を身に付けさせるようにする。また、授業や日常生活の中で積極的に話す機会を設け、伝えたいことをはっきりさせて発表できるようにする。
書くこと	○「報告書の構成を理解することができる」の設問の正答率が、市平均より3.9ポイント、県平均より6.4ポイント高い。また、「お礼の手紙を適切な順序と言葉づかいに書き直すことができる」の設問では、市や県の平均より1.2ポイント高い。手紙の形式を理解し、書くことに慣れてきた様子が見られた。 ●「目的に応じて必要なことを調べることができる」設問の正答率が、9.6ポイント低い。	・校外学習や体験学習などの振り返りに作文を書いたり、学校行事で手紙や招待状を書く機会があったりと、進んで書く様子が見られる。数多く書くことにより、書くことへの抵抗が少なくなり、効果があったと思われる。 ・目的をもった報告書や新聞などに必要な事柄を調べたり情報を集めたりする練習を、国語の授業や総合的な学習・学活の時間等で意図的に取り入れたい。
読むこと	○領域の正答率は59.3%で県平均より2.7ポイント、市の平均より0.8ポイント高い。特に、「文と文のつながりに注意して文章を読むことができる」設問で、県平均より8.3ポイント、市平均より7.2ポイント高い。日頃の読書の成果が表れ、読み取る力が定着したと思われる。 ●叙述を基に場面の移り変わりを読むことができる設問の正答率は41.7%で、市平均より1.2ポイント低い。	・引き続き、毎日、音読に取り組みせると共に、場面の移り変わりを考えながら読めるようにしたい。 ・朝の読書や読み聞かせなどを通して、読書の楽しさを味わわせ、進んで本に親しめるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○3学年の漢字正答率は80.6%で、市の平均より3.2ポイント、県平均より5.1ポイント高い。日々の漢字練習の習得が定着したと思われる。 ●ローマ字の設問の正答率は56.9%で、県の平均より5.3ポイント低い。また、言葉の学習全般において県の平均より平均で12.2ポイント低い。主語や述語など言葉のつくりの定着に課題が見られる。	・日常生活に出てくる簡単な物の名前や人物の名前をローマ字で書けるようになるまで指導を繰り返し、定着を図っていく。 ・「主語や述語」、「漢字のへんやつくり」などの言葉の学習についても、ドリルやプリントを活用するなどして、家庭学習における習熟の機会を確保できるようにしたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.1	72.9	72.6
	量と測定	71.5	72.4	72.6
	図形	78.5	81.4	82.1
	数量関係	73.3	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	62.3	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	77.7	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	74.9	77.8	78.8



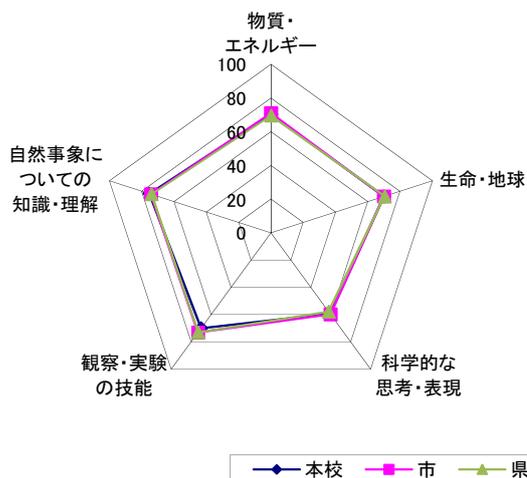
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○「小数の計算」に関する設問の正答率は77.8%で、市の平均より5.7ポイント、県の平均より6ポイント高い。また、「式を用いながら理由を説明する」の「わり算」に関する設問では、県平均より6.5ポイント、市の平均より6.5ポイント高い。更に「かけ算」に関する設問で、県平均より8ポイント、市の平均より7.3ポイント高く、自分の考えを言葉で表す力の定着が見られる。</p> <p>●「余りのあるわり算の計算をする」の設問では、市の平均より8ポイント、県の平均より8.2ポイント低い。わり算の筆算の定着に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算の仕方の定着に向けて、かけ算九九の習熟や、ひき算の筆算の仕方の理解など、基本的な計算力の向上を図りたい。 ・計算ドリルやプリントを活用するなどして、計算練習の機会を増やしていく。
量と測定	<p>○「はかりに示された重さを読み取る」設問では、県の平均より2.1ポイント、市の平均より3ポイント高い。「2つの時間を求めて比較する」設問では、県の平均より0.6ポイント高い。</p> <p>●「身近にあるものの重さを推察する」設問では、県の平均より8.6ポイント、市の平均より7.1ポイント低い。日常生活における算数的活動に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1gと1kg、さらには1tの重さの量的な違いを確実に理解させていきたい。また、身近なものの重さを推察する機会を意識的に設けていく。
図形	<p>○「二等辺三角形を作図する」設問の正答率は93.1%で、県・市の平均より5.6ポイント高い。作図の習熟に一定の成果が見られる。</p> <p>●領域の正答率は78.5%で、県の平均より3.6ポイント、市の平均より2.9ポイント低い。特に、正三角形の定義の理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正三角形の定義の定着のためには、図形の特徴をおさえたり、作図の機会を増やしたりするなど、理解の徹底を図りたい。 ・折り紙などを使った算数的活動を増やすことで、児童の気づきをより多く引き出す学習を心掛ける。
数量関係	<p>○「□を使った式」に関する設問では、県の平均より3.9ポイント、市の平均より3.5ポイント高い。また、文章問題の立式・計算の正答率は、県の平均より1.9ポイント高い。</p> <p>●領域の中でも、「棒グラフを読み取り提示された条件に該当する項目を示す」設問の正答率が、県の平均より9.4ポイント低い。棒グラフの理解に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフの理解の定着には、表とグラフの関係性を確実に理解させていきたい。 ・棒グラフに関するプリントを活用し、グラフの作成や条件に合った読み取りの機会を増やすことで、グラフに慣れさせるとともに、復習の機会を設けていく。

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.5	71.1	69.6
	生命・地球	70.0	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	59.2	59.8	57.8
	観察・実験の技能	70.1	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	75.4	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○全体としては市や県の平均とほぼ同じである。「光のせいしつ」に関する設問では、市の平均を3.8ポイント、県の平均を4.4ポイント上回っている。設問ごとに見ると、虫眼鏡で集めた光の明るさや温かさの違いの問題の正答率が市や県の平均を大きく上回っている。</p> <p>●「ものと重さ」に関する設問では、市の平均より6.1ポイント、県の平均よりも5ポイント下回っている。中でも正答率の低かった問題は、体積が同じでも種類によっては重さが違うことや「回路」という言葉に関する問題であった。</p>	<p>・「ものと重さ」の単元での正答率が市や県よりも低い。同じ体積でも重さが違ってくことや「回路」や電気を通すものと通さないものなどの知識・理解の面が低いことが分かった。今後、各単元において基本的知識が確実に身につくよう、観察や実験をするときの着眼点をしっかりとおさえて指導するように改善していく。</p>
生命・地球	<p>○「身近な自然の観察」の単元では、市の平均を8.3ポイント、県の平均を9.2ポイント上回っている。設問ごとに見ると、昆虫の生活場所に関する問題の正答率が高い。</p> <p>●「こん虫と植物」に関する設問では、市の平均より3.7ポイント、県の平均より4.7ポイント下回っている。設問ごとに比較すると、昆虫の育ち方の順序や目的に応じた観察カードを書くという問題の正答率が低い。</p>	<p>・「こん虫と植物」の単元の「こん虫」の分野において育ち方の基礎的な知識の習得、観察記録に必要な事柄を押さえて書くという技能の習得が不十分である。お互いに観察記録を見合わせてアドバイスしたり、よい観察記録を参考にしたりする学習を多く取り入れて技能の習得を図り、基礎知識を定着させていきたい。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」「毎朝、朝食を食べている」はいずれも肯定率が90%を超え、基本的な生活習慣は身に付いている様子がうかがえる。

○「学校の宿題は、自分のためになっている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う」「先生は学習のことについてほめてくれる」という問いに対しての肯定率も90%を超えており、前向きな気持ちで学習に取り組んでいる。

○「物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「人と話すことは楽しい」「自分は家族の大切な一員だと思う」なども肯定率が90%を超えていることから、人や家族とのふれ合いでの満足度が高く、自己肯定感も高い。

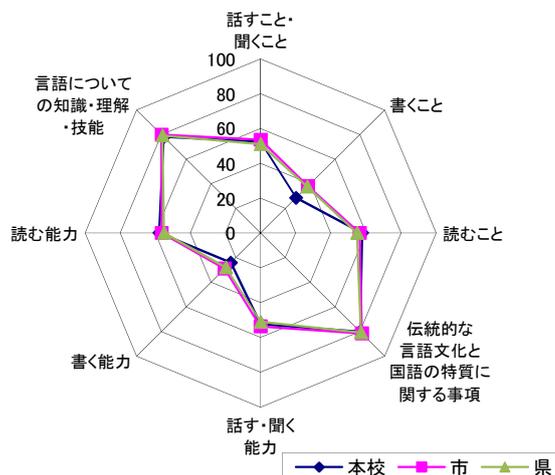
●「学校の授業の予習・復習をしている」「むずかしい問題に出会うと、やる気がでる」などは市や県の肯定率よりも低い。決められた宿題には真面目に取り組むが、自分で考えて学習に取り組む意欲は高くない。今後、自主学習の定着に力を入れ、毎日、自主的な学習を考えて行うような課題を取り入れていきたい。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」が県や市の肯定率よりやや低い。そこで、話し合う活動を授業の中に設定し、自分の考えをもって取り組んだり、友達の考えのよさに気付いて自分の考えの中に取り入れられたりできるように支援していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	52.4	53.6	51.0
	書くこと	28.6	38.1	37.6
	読むこと	57.8	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	80.2	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	52.4	53.6	51.0
	書く能力	24.0	29.0	28.0
	読む能力	57.8	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	78.1	79.9	79.1



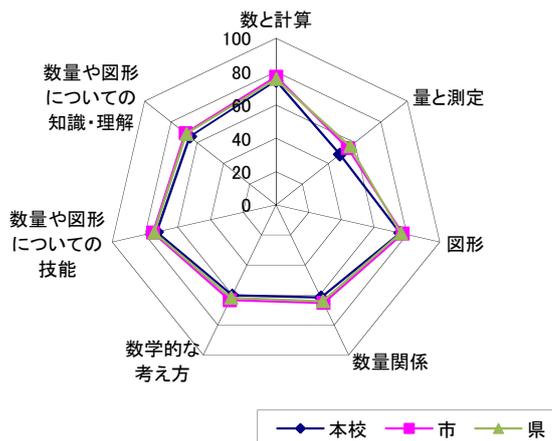
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○県や市の平均とほぼ同じ状況である。「司会者の話合いの進め方の工夫についての理解」については、県平均を7ポイント上回っている。 ●「話し方の工夫に気を付けて聞くこと」については、県平均を約4ポイント下回っている。	・朝の会での1分間スピーチや授業で「話すポイントかきつけ」「聞くポイントあいうえお」を常に意識させる指導を継続する。特に友達の話をよく聞き、友達の話の工夫した点を考えながら聞き、それを伝える活動を意図的に増やしていきたい。
書くこと	●「発表するために調べたことの要点をまとめて書くこと」については、県の平均とほぼ同じ状況である。「与えられたテーマに対する記事を条件に合わせて書くこと」については、県の平均を9ポイント下回っている。	・国語の授業だけでなく、総合的な学習の時間や日記などで、テーマを意識した文章を書いたり、段落ごとの役割（「理由」「具体例」「まとめ」）を理解して書いたりする活動を意識的に取り入れていきたい。
読むこと	○県や市の平均とほぼ同じ状況である。「説明文の目的や必要に応じて、文章の内容を読むことができる」については、県の平均を9.4ポイント上回っている。「物語文の叙述を基に、登場人物の気持ちを想像して読むことができる」についても県の平均を4.8ポイント上回っている。	・音読を継続指導するとともに、朝の読書や読み聞かせなどを通し、進んで本に親しめるようにする。 ・教材を通して、段落相互の関係や場面の様子など丁寧な読み取りを進めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○県や市の平均とほぼ同じ状況である。「漢字の読み書き」については、県の平均を大きく上回っているものと大きく下回っているものとばらつきがある。「慣用句の使い方」については、県平均を5ポイント上回っている。	・前学年の漢字を朝の学習や宿題に取り入れて定着を図る。また、書く活動において、学習した漢字を積極的に使うよう指導していきたい。

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.6	77.0	75.6
	量と測定	48.7	54.8	56.5
	図形	76.0	77.4	76.3
	数量関係	61.7	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	60.3	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	72.9	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	65.7	69.1	68.4



★指導の工夫と改善

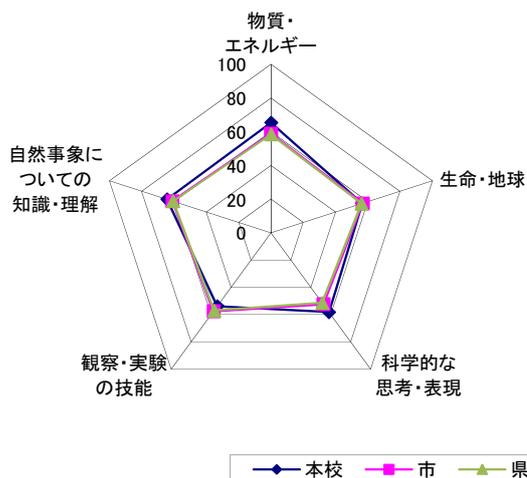
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○県平均とほぼ同じ状況である。「小数」に関する設問の正答率は78.2%で、市平均より0.4ポイント、県平均より1.9ポイント高い。小数のしくみを答える設問の正答率は92.2%と高く、県平均を大きく上回った。</p> <p>●「億と兆・がい数の表し方」に関する設問の正答率は70.8%で、市平均より9.9ポイント、県平均より9.3ポイント低い。がい数の定着に課題が見られる。</p>	<p>・がい数については、四捨五入する位を間違ってしまう児童が多かった。そのため、「～の位までのがい数」「上から～けたのがい数」という問題では、表したい位の1つ下の位の数字に着目することをもう一度確認する。また、類題プリント等で復習する機会を設け、定着させていく。</p>
量と測定	<p>○角の大きさの見当をつける設問では、県平均を5.2ポイント上回った。</p> <p>●領域の正答率は48.7%で、市平均より6.1ポイント、県平均より7.8ポイント低い。正方形の面積を求める設問の正答率は53.2%で、県平均より16.2ポイント低い。</p>	<p>・正方形の面積については、体積と勘違いして解答した児童が多く見られたため、実際に図を描かせて立式させるようにする。つまずきが見られる児童には、「1cm²の正方形の何個分か」という考え方を振り返らせ、公式へとつなげていく。</p>
図形	<p>○県平均とほぼ同じ状況である。四角形の対角線の性質を問う設問では、県平均を2.4ポイント上回った。</p> <p>●立方体の見取図から、辺と平行な辺を答える設問の正答率は77.9%で、県平均を2.5ポイント下回った。立体の理解に課題が見られる。</p>	<p>・立体の見取図については、立体の模型を用いて、辺や面に鉛筆や下敷きを当てながら実感させていく。その際、平行や垂直の意味も確認し、今後の学習に生かせるようにする。</p>
数量関係	<p>○四則混合の式を立式し、正しい答えを求める設問の正答率は85.1%で、県平均を5.2ポイント上回った。</p> <p>●領域の正答率は61.7%で、市平均より3.6ポイント、県平均より2.6ポイント低い。()を用いた式で課題が見られ、県平均を10ポイント下回った。</p>	<p>・四則混合の計算順序は理解していても、()を用いた計算でつまずく児童が多く見られた。()の中でも四則混合の計算順序が使えることを確認させ、類題プリント等で様々な問題に触れさせながら定着させていく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.4	59.0	58.3
	生命・地球	56.5	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	58.2	52.5	51.4
	観察・実験の技能	53.8	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	64.3	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○領域の正答率は65.4%で、市平均を6.4ポイント、県平均を7.1ポイント上回った。また、全ての単元で市平均、県平均を上回った。設問ごとに見ると、「つつの中に入れて風船の体積の変化」については20.7ポイント、「水が氷になったときの体積の変化」については20.4ポイント県平均を上回った。</p> <p>●「水が氷になるときの温度変化」についての設問で、県平均を14.4ポイント下回った。</p>	<p>・「水が氷になるときの温度変化」については、水は0℃になるとおぼろげに、全てが氷になるまでの温度は、0℃のまま変わらないことを確認する。また、グラフを正しく読み取ることができなかった児童も多かったため、観察や実験の際にはグラフを描かせたり読み取らせたりする機会を増やせるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>○領域の正答率は56.5%で、市平均、県平均とほぼ同じである。「人の体のつくりと運動」の単元の正答率は61.7%で、市平均を18.4ポイント、県平均を19.2ポイント上回った。特に、人の背中がまるく曲げられる理由を記述する設問の正答率は68.8%で、県平均を30.9ポイント上回った。</p> <p>●「季節と生物」に関する設問の正答率は57.1%で、市平均を5.5ポイント、県平均を4ポイント下回った。「月と星」に関する設問の正答率は55.6%で、市平均を4.1ポイント、県平均を3.6ポイント下回った。季節ごとに見られる生物の様子、方位磁針や星座早見の使い方に課題が見られる。</p>	<p>・「季節と生物」については、季節ごとに見られる生物を身近に感じるために、日頃から季節や生物の話をしたり校庭を見て回ったりする活動を取り入れるようにする。「方位磁針や星座早見の使い方」については、様々な観察において繰り返し使用させることで、使い方に慣れ、正しく使用できるよう指導していく。</p>

宇都宮市立雀宮南小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○好きな教科については、国語13.5ポイント、社会10.5ポイント、算数6.7ポイント、理科5.8ポイント県の平均を上回り、学習が好きという点は強みである。

○「授業では、自分の意見を発表する機会を与えられている」5.1ポイント、「授業を集中して受けている」「先生は学習のことについて褒めてくれる」は13.9ポイント上回っている。

○「自分には良いところがある」は5.1ポイント上回っている。

●「家で学校の宿題をしている」の肯定回答は、100%で、「ほぼ同じ時刻に取り組むようにしている」も県の平均を5ポイント上回っているが、家で「自分で計画を立てて勉強している」は県の平均を5.6ポイント、「学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」は、15.2ポイント下回っている。与えられた学習には真面目に取り組むが、自主的に学習するまでには至っていないことが分かり、今後の家庭学習の内容について課題が見られる。自主学習の進め方について、どのような学習ができるか例を示しながら再確認するとともに、頑張りを称賛し、励みとなるようにしたい。

●「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」は、県の平均を7.9ポイント下回っている。総合的な学習の他にも、国語や社会などの調べる学習で図書やインターネットを活用する機会を増やしたい。

●「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」は、県の平均を4.7ポイント下回っている。グループでの話し合いの機会を多くし、少人数の中で自分の意見を発表することに慣れさせたり、互いの意見をよく聞く雰囲気づくりをしたりして、自信をもって自分の考えを発表できるようにしたい。